

	<h1>進取の気概</h1> <p>(校長室だより)</p>	<p>有田市立箕島中学校</p> <p>自主 友愛 剛健</p>	R4・7・15
			No.25①

「いろいろな国が地球以外の天体を調べようとして宇宙に探査機を送っています。しかし、人間が地球以外に行ったことがある天体はたった1つしかありません。みなさんも知っていると思いますが、その天体は「月」です。

今から53年前の1969年7月20日、ある話題に世界中が興奮していました。アメリカのアポロ11号が月面に着陸し、人類がついに月に降り立ちました。このようすは世界に同時中継されました。このとき、アームストロング船長が残した言葉、「これはひとりの人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては大きな飛躍である」は大変有名です。



今から50年以上も前に、人類がどのように月に行ったのか調べてみました。ロケットは「サターンV(ファイブ)」という長さが100m以上もあるものでした。箕島中学校や建設中の有和中学校の校舎と比べてみると、だいたい左下の図の大きさぐらいです。ものすごい大きさです。また、そのスピードにも驚きます。地球を離れて月に行くためには、機体を切り離しながら加速を続け、1秒間に10km以上のスピードが必要だそうです。地図を見てみると、箕島中学校からポルトヨーロッパまで直線距離で約10kmでした。このスピードだとポルトヨーロッパまで1秒で行くことができます。ものすごい速さですね。

## 知ってか?

今年の末に、串本町と那智勝浦町にある「スペースポート紀伊」から、記念すべき第1号のロケットが打ち上がる予定です。ロケットの名前は「カイロス」というそうです。実際にロケットが飛んでいくところ、見てみたいですね。

→ロケットのシルエットはサターンVではありません。



ところで、このときに人類が残した足跡は、50年以上たった今でも月の表面にしっかりと消えることなく残っているはず。地球だとそうはいきません。なぜだか分かりますか？興味のある人は一度調べてみてください。

このあと、3年間で6回、合わせて12名が月面に降り立ちました。そして、月のいろいろなことを調べました。月から持ち帰った「月の石」は1970年に大阪で開催された「人類の進歩と調和」をテーマにした日本万国博覧会で展示され、大変な人気であったそうです。

「知らないことを知ってみたい」「行ったことがない所に行ってみてみたい」「見たことがないものを見てみたい」というようなまだ知らないことや経験していないことに興味をもてると毎日が楽しくなります。少し気が早いのですが、夏休み、何でもいいので自分が興味のあることを調べたり研究してみてもどうでしょうか。やればやるほど知らないことが多いことに気づき、さらにそれを知りたいと思うこと(好奇心といいます)が勉強したり研究したりするための原動力となります。

	<h1 style="text-align: center;">進取の気概</h1> <p style="text-align: center;">（校長室だより）</p>	<p style="text-align: center;">有田市立箕島中学校</p> <p style="text-align: center;">自主 友愛 剛健</p>	<p style="text-align: center;">R4・7・15</p> <hr/> <p style="text-align: center;">No.25②</p>
-----------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------



ヨットで単独世界1周を4度も経験している海洋冒険家の白石 康次郎さんのお話を紹介します。水平線の向こうに何があるのか、自分の目で確かめてみたいという好奇心が白石さんの原動力であるように思います。高校も船乗りになれる学校を自分で探し進学したそうです。



海に憧れを抱いたきっかけは6歳のときです。鎌倉に引っ越してきて初めて海に遊びに行ったときに、ブワッと目の前が開けていて、キラキラと輝いている真っ平らな海を見て、「大きいなあ！」と実感したんです。

そのとき、ふと「この水平線の向こうには何があるんだろう？」と思ったんですね。

噂では鎌倉の海の先にはハワイがあり、アメリカがあると言われていました。それで頭のいい友だちから、「白石、知ってるか？ 地球というのは丸いんだぞ」と言われたので、「そうか」とは答えたんですが、そのとき僕はこう思ったんです、「本当にそうなのかな？」と。そして、「自分の目で確かめよう」と思ったんです。

みんな、「地球は丸い」とか、「この先にアメリカがある。ハワイがある」と言ってますけど、本当にあるって自信を持って言えますか？

僕は子どもの頃に、「大きくなったら目の前の海を自力で越えて、本当にアメリカがあるのか、東へ東へ進むと本当に世界一周できるのか、この目で確かめよう」と決意したので、どうしたかという、やりました。

..... (中略) .....

昔のJR東日本のコマーシャルのコピーに、「距離に負けるな好奇心」というのがあったんですが、まさにそれでした。理屈なんかどうでもいい、とにかくやってみたかったんです。

..... (中略) .....

それで、三崎水産高校というところに自ら願書を取りに行き進学しました。その学校へは、義務教育ではなく、自ら志願して行ったので勉強しましたし、本も読みました。

人生って面白いものですね。

僕の国語の成績は5段階評価でずっと「2」で、作文もまともに書けなかったんですが、今では本を書くと意外と評判がよくて、講演会をやると本がよく売れるんです。

それから、僕は小さい頃からヨットがやりたかったんですが、実は船酔いが激しいんです。嵐でなくても出港直後は決まって激しい船酔いに襲われます。3、4日で治まりますが、その間は地獄の苦しみです。体質でいうとヨットには向いてないんですね。

僕は今、最も体質に合わないヨットをやっていて、最も嫌いだった本が意外と評判がいいんです。人生って本当に面白いものだなあと実感しています。 （日本講演新聞の記事から）